

競技種目	講評
パソコン操作	<p>問題1、問題2において、表計算ソフトの集計結果を集計・分析し、プレゼンテーションソフトで発表できるようファイルを作成していく問題を出题した。昨年度より、総合的なパソコン操作技術を競うという目的で出题している。集計する表のデータ数量が12万件を超える大量のデータであり、時系列、種類毎のクロス集計をスクリーンリーダーで行うためには、頭の中で表を組み立てていく必要があるが、選手各人よく表を理解し解答していた。しかし、やはり目視で確認ができない為、相応の時間を費やすことになり、1時間の競技時間をどう配分していくかが今年は点数の分かれ目となった。</p> <p>問題3については、関数の知識、論理思考を問う従来型の設問としたが、普段よく学習・利用している関数に関しては問題なく解答できていたが、簡単な関数でも普段あまり使わない関数については苦戦している選手も見られた。</p> <p>全体的に知識の引き出し方を競う傾向の問題としたが、選手それぞれにしっかりと対応し、日ごろの成果を発揮してくれたと思う。</p>
DTP	<p>全体にレベルが高い作品が多く、1位から5位の得点差は僅差でした。データにやや問題があったもののデザインの訴求力が高い作品で順位が高くなりました。</p> <p>トリムマークで断裁してチェックしたところ、レイアウトのバランスが崩れているものが散見されました。競技では時間の関係で画面上でのチェックのみになりますが、断裁後イメージして完成させることが大切です。</p> <p>また、レイアウトに使用したデータの保存は、パッケージ機能を活用するなど、アプリケーションの機能を研究しましょう。また、データの埋め込みで完成させる事もできますが、レイアウトに使用した元データも保存しておくのが良いでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金賞受賞理由 <p>全体のレイアウトやタイトルの入れ方が良く、コントラストが高く動的なレイアウトでバランスがとれていて、訴求力が強いので金賞となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀賞受賞理由 <p>キャラクターへの日の丸の加筆など、表現が細やかで、レイアウトのバランスも良いので銀賞となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銅賞受賞理由 <p>独創性の高いレイアウトで、コンセプトに合ったイラストの工夫も良く、銅賞となりました。</p>
ホームページ	<p>使い慣れていないソフトウェアでの競技や、ゼロからコーディングすることによる戸惑いを感じられました。文言などのコピー＆ペーストできる素材は活用するとスピードアップになるので、与えられた課題をしっかりと確認して始めることが大切です。</p> <p>また画像等の素材はいただいたものが使えるか、イラストレーターから抜き取って使うかを先に判断し、素材を揃えてからスタートすると作成効率が上がっていいと思います。</p> <p>特に納期が短い場合、大きなレイアウトを先に構築するといった作戦になり、幅調整などの細かいところは後回しにする勇気も必要です。</p>
製品パッキング	<p>今年度も参加者17名（1名欠席）と多くの皆様にご参加いただきました。選手の方々、支援者の皆様、応援いただいた方々皆様へ御礼申し上げます。</p> <p>競技終了後、選手に「やり切ったと思える人？」と聞きますと4～5名の方がやり切ったと思っていただけでした。残り12～13名は…自分はもっとできる、この結果に満足していないという気持ちの表れで少し悔しい気持ちがあったのかと私共は思いました。</p> <p>今回参加いただいた選手でやり切ったと思えなかった選手は是非次年度の参加をお待ちしております。めいっばい練習をして次回は今年度を上回る結果を出していただけることを期待しております。またこの講評を読んで新たに挑戦したいと思われた方々も次年度は参加されることを待ち望んでおります。</p> <p>今大会は昨年同様、静かな大会になったと感じました。スピードよりも品質（箱折りの丁寧さ、綺麗さ）重視で競技を進めるといった作戦を立てた選手（団体）が昨年よりも多かった感じがしました。</p> <p>品質やスピードを上げることは選手の努力が大きいのはもちろんですが、そのレベルまで教え付き添いされた支援者、応援者の皆様のお力添えも大きなものだと思います。この支えが非常に大事な競技と私共は思っております。今後とも参加される選手への多大なご協力を継続してお願いできればと思います。</p> <p>今後とも製品パッキング競技をよろしくお願い申し上げます。</p>
販売・物流アシスト	<p>参加者の人数は4名と少なかったですが、その何倍もの見学者に集まって頂き、熱気のある会場となりました。</p> <p>課題1は15分。輪ゴムの計量と小物用袋への封入、フタの貼付け作業で、最大15袋分を作ります。課題2も15分。大会リーフレットと課題1で作った製品を、大きな透明袋に詰めて、販売促進用の配布物を作ります。</p> <p>ところで、課題1では電子ばかり（デジタルスケール）の初期設定も、競技中に行います。少しややこしい設定なので、最初に全員で練習します。まず、空の紙コップをはかりに乗せて、その重さを引いて0グラムになるように設定します。その次に輪ゴム50本を入れて、50本分の重さをはかり、その重さが50本分であることをはかりに表示させます。すると輪ゴム1本分の重さをはかりが覚えるという訳です。競技では20本の輪ゴム（内2本は緑色のもの）をはかって、袋に入れますから、この工程は正確に行わないとなりません。うまく設定できていない方がいないか、スタッフが確認しますが、説明がきちんと伝わっているか、一番緊張する場面です。</p> <p>また、競技開始直前には机の上のレイアウトを、作業し易いように変えてもらう時間を取ります。今回は、全員が工夫をこらして変更をされていて、皆さんの気合いを感じました。説明と練習後はいよいよ本番。競技中には来客者（模擬）もあり、挨拶もします。</p> <p>最終的には、評価に大きな差はありませんでしたが、金・銀・銅賞が確定しました。結果も大事ですが、それ以上に、この競技で培った経験を、今後の就職や、日頃の仕事に活かして欲しいと思っています。課題2で販売促進用の配布物を作成する説明では、こんな風にお話ししました。</p> <p>「販売促進物の封どめが、ゆがんでいたら、どうでしょうか？それをもらったお客さまも、良い気持ちにはなりませんよね。ですから、一つひとつの作業を、心を込めて丁寧にやって下さいね」と。</p> <p>選手の皆さま、お疲れさまでした。</p>

競技種目	講評
喫茶サービス	<p>喫茶サービス競技の選手の皆さま、大変お疲れさまでした。</p> <p>当日は緊張もあったと思いますが、大きな声でのあいさつや丁寧なお辞儀など、多くの選手が日頃の訓練の成果を発揮されていました。また、柔和な表情でお客様に接する姿も多く見られ、お客様が自然と笑顔になる場面もあり、大変好印象でした。</p> <p>注文時のお客様への対応についても、「クレジットカードは使えますか」「お店の定休日はいつですか」といった質問に対し、落ち着いて適切に対応できていました。定型的な接客動作だけでなく、お客様の要望や質問に丁寧に応える姿勢は、喫茶サービスにおいて非常に大切な要素です。</p> <p>今年度の競技では、選手同士の連携が特に良く取れていたことが印象的でした。お互いに声を掛け合いながら役割を補い合い、店舗全体の状況を見ながら行動する様子が多く見られました。喫茶サービス競技では、一人ひとりの接客技術だけでなく、チームとして協力しながら円滑な店舗運営を行うことも重要な評価ポイントであり、その点において今年度の選手の皆さんは大変優れていたと思います。</p> <p>また、基本動作や競技上の手順について課題が見られる選手もいましたが、そのような選手であっても、お客様に対して非常に丁寧に好感の持てる接客態度を示していました。競技の点数には結び付かない部分もありましたが、お客様に安心感や心地良さを与える姿勢はサービス業において大変重要なものであり、その点を高く評価したいと思います。</p> <p>一方で、来店が混みあってきた際に、お盆を持ったまますぐさま接客に向かう選手や、いったんお盆を返してから接客に向かう選手もいました。お客様を優先して臨機応変に動くことや、ひとつひとつの動作を効率化することも、今後の目標にして頂きたいと思います。</p> <p>今回の競技では、お客様の来店状況を確認しながら片付けを行ったり、手が空いている選手へ適切に声を掛けて接客を依頼したり、「自分がBテーブルにいきます」等と自らの行動を言葉にして共有することで他の選手の動きを活性化するなど、チーム全体でスムーズな店舗運営を意識していた選手が高い評価につながりました。</p> <p>お客様をお待たせしないように周囲の状況を観察しながら、互いに協力して気持ちの良いサービスを提供することが、より良い喫茶サービスにつながります。</p> <p>選手の皆さんには、今大会で得た経験を今後の学びや実践に生かし、さらに技能を高めていただくことを期待しています。皆さん、本当にお疲れさまでした。</p>
表計算	<p>表計算競技に参加された選手の皆様、お疲れさまでした。また、表彰された選手の皆様、受賞おめでとうございます。</p> <p>今年の表計算競技は参加者が昨年より大幅に増加し、皆様の関心の高まりを感じたと同時に、選手の皆様が90分もの間、真剣に取り組んでいた様子が印象的でした。</p> <p>今年も「装飾・編集」、「データ処理」、「グラフ作成」、「関数式による表の完成」の4問題を出題しました。「装飾・編集」では条件付き書式、「データ処理」では集計、「グラフ作成」ではページ設定、「関数式による表の完成」では日数算出と文字列の分割で、点数の差が出ていたように感じます。</p> <p>また、半角・全角の指定やファイルの保存場所に関する指示の見落としによって、減点につながってしまった方もいらっしゃいました。競技内容そのものだけでなく、提出方法や問題文を丁寧に確認し、見直す習慣を身につけるきっかけになればと思います。</p> <p>表計算ソフトは、多くの企業でデータ管理や集計、資料作成など幅広い業務に活用されています。業務の効率化が求められる中で、基本操作はもちろん、関数やグラフ作成、データ分析機能などを理解しておくことで、作業時間の短縮やミスの削減につながります。日頃から便利な機能を少しずつ習得し、目的に応じて使いこなせるようになることが、実務で大きな強みになります。</p> <p>来年は、さらに多くの方にチャレンジしていただくことを期待しています。皆様のご参加をお待ちしています。</p>